

甲府市の事務事業における温室効果ガス排出状況について

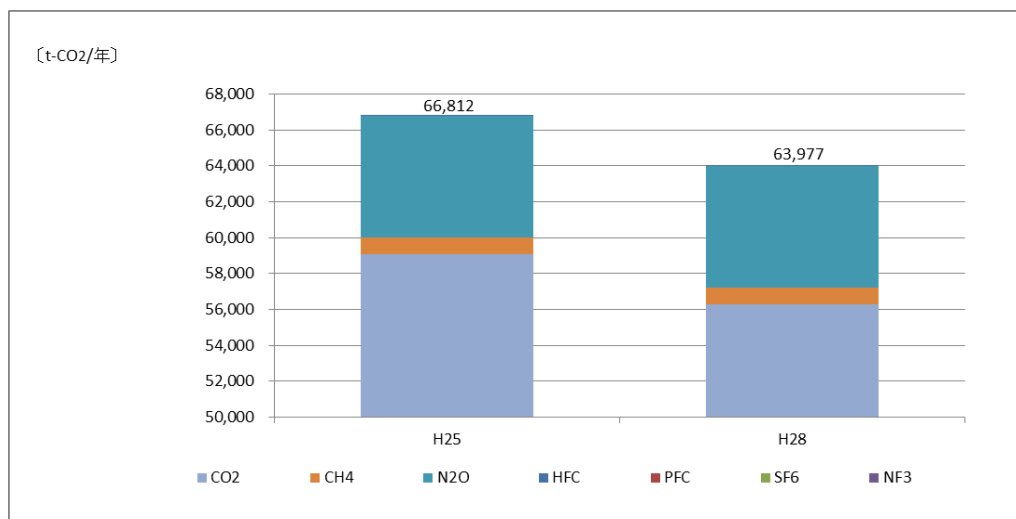
甲府市行政が行う事務・事業に伴って発生する二酸化炭素の排出量を抑制するため、「甲府市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。本計画では、本市の温室効果ガス排出量の状況や、省エネルギーへの取り組み等を踏まえ、「公共施設」と「公用車」について原単位目標を2016（H28）年度から設定し、平成25年度を基準年度として2030（H42）年度までに毎年1%ずつ削減（基準年度比15%削減）することを目指しています。

つきましては、2016（H28）年度に関する本市事務事業における温室効果ガスの排出状況と、参考値として同年度の「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況（原単位）を公表します。

■温室効果ガスの排出状況

（1）総排出量及びガス種類別排出量（単位：t-CO₂/年）

ガス種類	2013(平成25)年度		2016(平成28)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
二酸化炭素(CO ₂)	59,081	88.4%	56,272	88.0%
メタン(CH ₄)	923	1.4%	923	1.4%
一酸化二窒素(N ₂ O)	6,803	10.2%	6,779	10.6%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	4	0.006%	4	0.006%
パーフルオロカーボン(PFC)	0	0.0%	0	0.0%
六フッ化硫黄(SF ₆)	0	0.0%	0	0.0%
三フッ化窒素(NF ₃)	0	0.0%	0	0.0%
合計	66,812	—	63,977	—
対基準年度比	—	—	△4.2%	—



※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○総排出量は、平成28年度は基準年度に比べ4.2%減少しています。ガス種類の二酸化炭素（CO₂）と一酸化二窒素（N₂O）が減少しており、一般廃棄物における廃プラスチックの組成率が低かったことが要因と考えられます。

(2) 活動種類別排出量 (単位: t-CO2/年)

活動種類	2013(平成 25)年度		2016(平成 28)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
燃料の燃焼	3,378	5.1%	3,272	5.1%
他人から供給された電気の使用	21,990	32.9%	19,976	31.2%
一般廃棄物の焼却	35,251	52.8%	34,271	53.6%
産業廃棄物の焼却	3,408	5.1%	3,644	5.7%
ディーゼル機関における燃料の使用	3	0.004%	2	0.003%
ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78	0.117%	81	0.126%
自動車の走行	10	0.015%	10	0.016%
下水又はし尿の処理	2,691	4.0%	2,681	4.2%
麻酔剤(笑気ガス)の使用	0	0.000%	36	0.056%
自動車数(エアコンディショナー)	4	0.006%	4	0.006%
合計	66,812	—	63,977	—

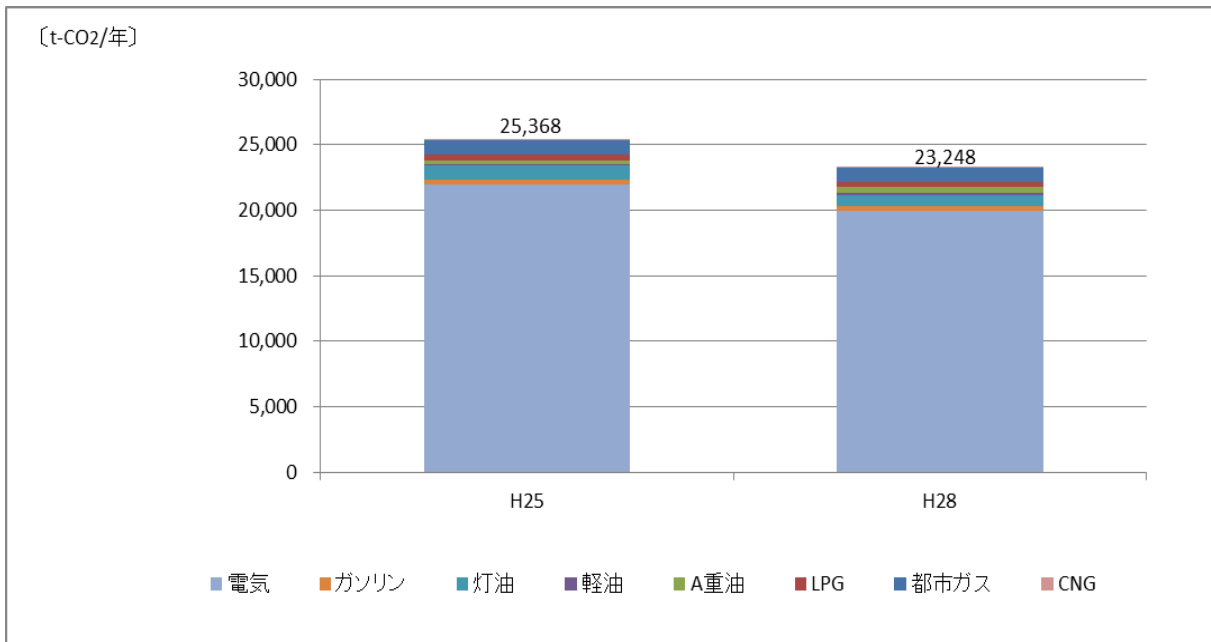
※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○活動種類別排出量では、主に「産業廃棄物の燃焼」や「ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用」が平成 28 年度は基準年度に比べ増加しています。また、「他人から供給された電気の使用」や「一般廃棄物の焼却」は、平成 28 年度において減少しています。

(3) エネルギー起源二酸化炭素排出量 (単位: t-CO2/年)

エネルギー種類	2013(平成 25)年度		2016(平成 28)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
電気	21,990	86.7%	19,976	85.9%
ガソリン	328	1.3%	323	1.4%
灯油	1,068	4.2%	847	3.6%
軽油	152	0.6%	129	0.6%
A 重油	289	1.1%	533	2.3%
LPG	455	1.8%	375	1.6%
都市ガス	1,074	4.2%	1,062	4.6%
CNG	12	0.05%	3	0.01%
合計(エネルギー起源 CO2 排出量)	25,368	—	23,248	—
(再掲)温室効果ガス排出量	66,812	—	63,977	—
エネルギー起源 CO2 の排出比率	38.0%	—	36.3%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○エネルギー起源二酸化炭素排出量と全体に占める割合は、基準年度に比べ減少しており、市の省エネルギー対策等の効果が現われていると考えられます。

○エネルギー起源二酸化炭素排出量では、「電気」の割合が一番多く、二番目に多いのが「都市ガス」となっています。平成28年度の比率は、基準年度に比べ概ね横ばいになっています。

■計画の目的と削減目標

「公共施設」の削減目標は、2020（H32）年度の本市温室効果ガス排出量原単位（公共施設の延床面積1㎡あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減、「公用車」の削減目標は、公共施設と同様に「2020（H32）年度の温室効果ガス排出量原単位（公用車1台あたり）を2013（H25）年度比7%以上削減」としています。

また、平成28年度の温室効果ガス排出量原単位（公共施設/公用車）をつぎのとおり公表します。

（1）温室効果ガス排出量（公共施設/公用車）（単位：t-CO2/年）

区分	活動種類	2013(平成25)年度		2016(平成28)年度		対基準年度差
		個別	分類別合計	個別	分類別合計	分類別
公共施設	他人から供給された電気の使用	21,990	24,992	19,976	22,956	△2,036
	ディーゼル機関における燃料の使用	3		2		
	ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78		81		
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0		36		
	燃料の燃焼	2,921		2,861		
公用車	公用車以外	2,921	470	412	425	△45
	公用車	457		10		
	自動車の走行	10		4		
自動車	自動車数(エアコンディショナー)	4		4		

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

」

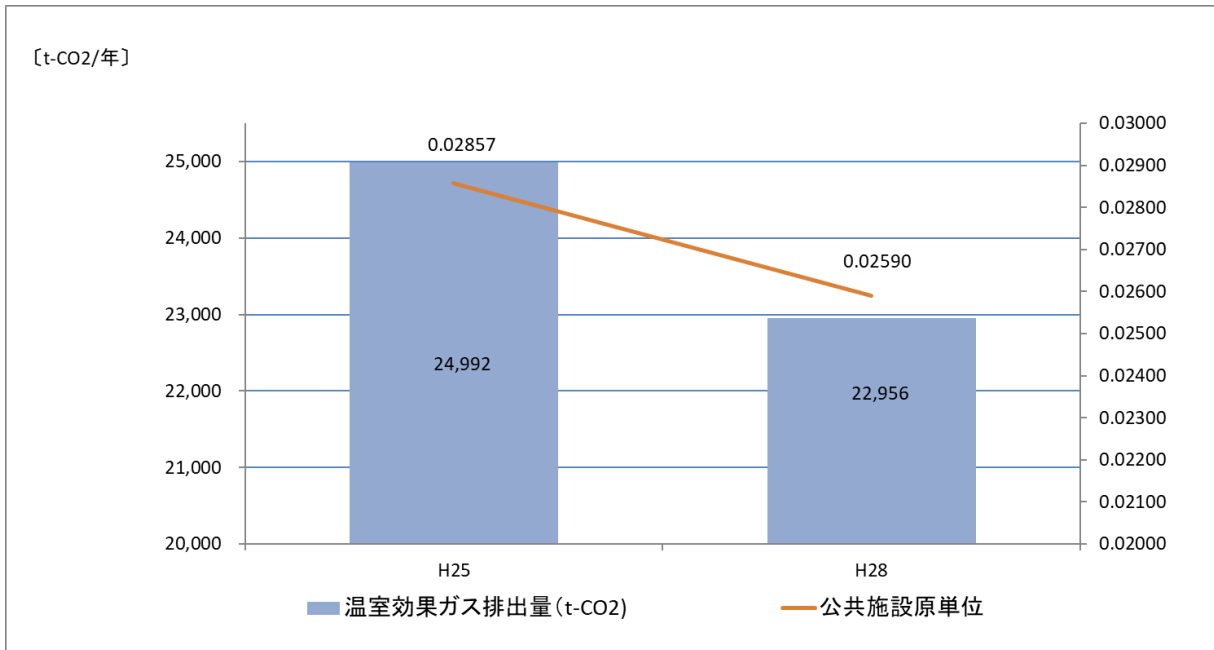
○公共施設・公用車の温室効果ガス排出量は、平成28年度は基準年度に比べ減少しています。

（2）温室効果ガス排出量削減原単位（単位：t-CO2/年）

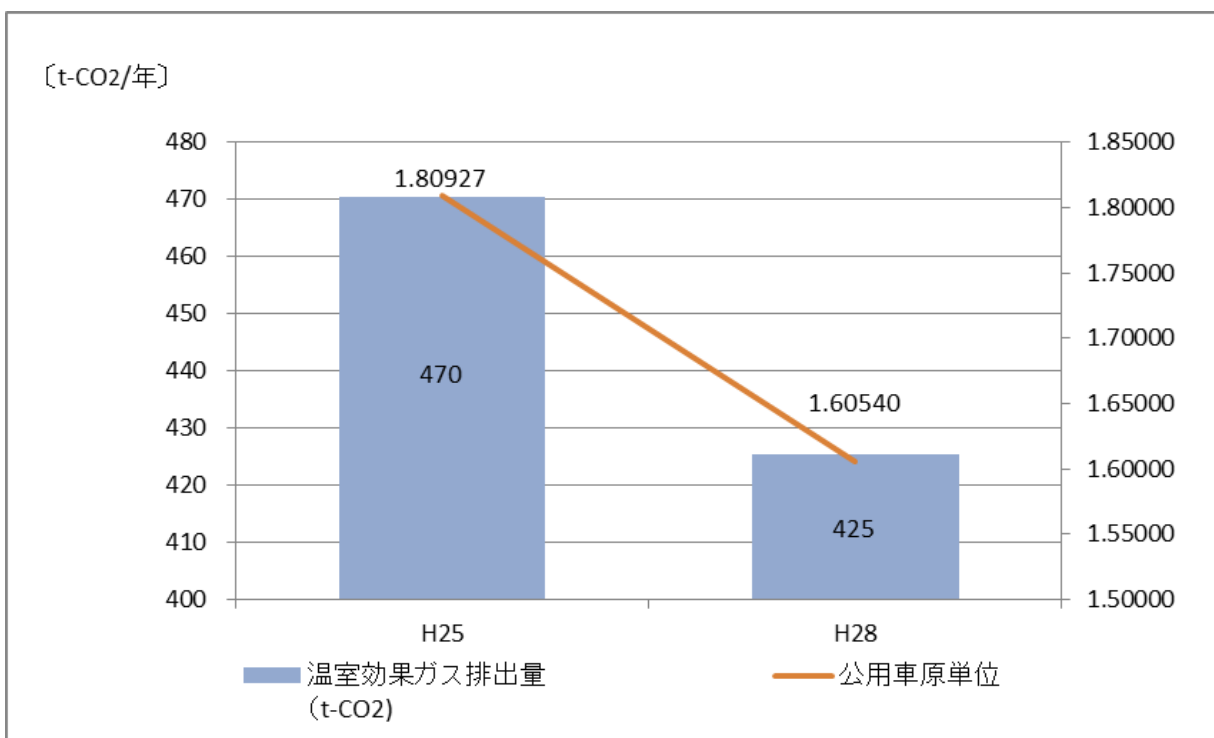
公共施設	2013(平成25)年度	2016(平成28)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	24,992	22,956
延床面積(㎡)	874,762	886,270
原単位(t-CO2/㎡)	0.02857	0.02590
基準年度比		△9.3%
公用車	2013(H25)年度	2016(H28)年度
	基準年度	
温室効果ガス排出量	470	425
車両台数(台)	260	265
原単位(t-CO2/台)	1.80927	1.60540
基準年度比		△11.3%

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

【公共施設】



【公用車】



○原単位とは、「温室効果ガス排出量」を「公共施設の延床面積」や「公用車の台数」で割ったものです。

○公共施設・公用車とも、平成28年度は基準年度に比べ減少しています。